

【渋川女子高等学校アメリカ研修 2日目報告書】

朝は少し冷え込み、薄い雲が流れる静かなボストンの街。ホストファミリーと過ごした最初の朝は、それぞれが“アメリカの朝”を体験する時間になりました。食卓に並ぶのは、日本の家庭とはまったく違うシンプルスタイルの朝食。シリアルだけ、トーストだけ、パンケーキだけといった“ワンプレート朝食”が多く、そこにスクランブルエッグなどの簡単な卵料理が添えられる家庭もありました。和食のようにおかずが複数並ぶことはありません。また、高校生になると自分で朝食を用意するのもよく見られる光景です。少し驚きつつも、ホストファミリーの日常を肌で体験することとなりました。

今朝は Park Street Station に集合。初めてのルートにも関わらず、全員が迷わずほぼ時間通りに到着できました。これがどれだけ凄いことか！中には集合時間の2時間前に到着している生徒もいました。「遅れるかもしれない。万が一に備えて早く出発しよう！」と考えて行動した結果です。屋外で待つのは寒いので、近くにあるカフェに入ったり、デパートを覗いたり、集合時間まで思い思いに過ごすことができました。全員そろったところで、ボストン市内を徒歩でめぐる（簡易）オリエンテーションへ出発です。まずは語学学校までの行き方を確認します。その後、Government Center Station、City Hall 方面を歩き、明日たどるフリーダム・トレイルの一部を軽く“予習”。歴史の舞台となった場所が今も街の中に息づいていることに、生徒たちは興味津々でした。

続いて向かったのは Faneuil Hall (ファニユエルホール)。今日は歴史の詳細には触れず、建物の“現在の姿”を紹介しました。1階にはお土産ショップが並び、地下には広いトイレがあることを確認。サミュエル・アダムスの名前を知る生徒はほとんどおらず、「じゃあ明日までに少し予習しておこうね」と声をかけると、「はい！」と笑顔で応えてくれました。明日のフリーダム・トレイルで、今日の“種まき”がどんな実りになるのか楽しみです。

その後はクインシーマーケットで自由時間。定番のクラムチャウダー、色とりどりのアイス（寒いのに！）、10ドルもしたというレモネード、七色のチーズハッドグなど、思い思いのランチを自分の英語で注文していました。美味しいものを前にすると緊張もやわらぐのか、みんな本当に楽しそうに食べ歩いていました。

再集合後、各自ホストファミリー宅へ帰宅。途中、「バス停を通り過ぎた！」「チャーリーカードが反応しない…！」など SOS も届きましたが、そのたびに友人同士で助け合い、周囲の人に聞いてみるなど、自力で問題を解決。結果、全員が無事に 16 時頃帰宅することができました。

明日からはいよいよ本格的なプログラムが始まります。日本とは異なるアメリカ家庭の当たり前、アメリカの歴史、小さなトラブルを自分たちの力で乗り越えた経験は、どれも確実に生徒の自信につながっているように感じました。これから始まる語学学校での学びや一つひとつの出会いと体験が、さらに視野を広げていくことでしょう。

